

姫路地方に於けるシギ・チドリ類の渡りに關する研究 (1)

釜 江 正 巳

我が国に分布する鳥類の内「渡り」を行う鳥類は数多いが、其渡り方に依り夏鳥、冬鳥、旅鳥と區別する。夏鳥とは春渡つて来て蕃殖し秋には育てた雛を伴い南方に旅立つ鳥のことでツバメが良い例である。これに入れ替つて秋に我が国に渡つて来て越冬し春先に再び北方に去り北地で蕃殖するのが冬鳥で、日本ではガンやツグミが良い例である。次に旅鳥とは夏に我が国より遙か北方で蕃殖し冬は日本を通過して遙か南方に越冬し日本を単なる通過地とする場合をいうのであつてシギ、チドリ類の大部分が之に属している。之等は分類学上シギ目Limicolaeでこれにはシギ科18属、42種、チドリ科7属、15種、ツバメチドリ科1属、1種計58種がある。

さて、この内少数のものを除くと約40種が規則的に毎年日本を春、秋両季に通過する。大体東半球の北部、即ちアラスカ、シベリヤ東北部で蕃殖した鳥類が南方の越冬地に向う経路としては 1) 沿海州から大陸の海岸線を通つて南下するもの 2) カムチャツカ、千島又は樺太を經由して北海道、日本列島、フィリッピン、南洋諸島を通りオーストラリアに向うもの 3) アメリカ大陸の東岸又は西岸を通つて中米から南米に南下するもの、に分けられる。即ち日本に分布するシギ、チドリは第2の場合である。然し中には少数の種類が冬鳥乍ら日本にて越冬するのがあり、ハマシギ、タシギ、ヤマシギ、アオシギ等これに類する。又全然渡りをせず一箇所にばかり定住する所謂留鳥としてタマシギ、コチドリ、イカルチドリ、なお日本にて蕃殖するものとしては上記留鳥の外ケリ、インシギ、オオヂシギ、ヤマシギ、シロチドリ等がある。之等各種類の「渡り」の季節は大体に於て一定しているとは言え、詳細に観察すると種類によつて多少の差異があり又同一種でも年々同様では無く個体数や渡りの時期に早晚がある。例えば或る記録に依ると鴨場にマガモが秋渡つてくる日と、春去つた日とを16ヶ年にわたつて調査した結果秋最も早く渡つて来た年は10月1日で、1番遅く来た年は10月19日であつて19日間の開きがあり更に春去つたのは早い年で3月5日、遅い年で4月26日となつて居り之では52日間の開きがある説である。このことは春去る時の方が成熟に早い遅いがあるためとも解されている。大体一般周知の如くシギ、チドリは水に非常に縁が近く、生態的にみて水に關係のないものは殆んどないといつてよい程である。従つ

て之等の調査は殆んどが泥沼の歩行困難な所とか、海岸、池沼、河口等に限られ、加うるに「渡り」の時期が大部分が春から盛夏、早秋の間で一般狩猟期と無關係である等のため観察が困難を極め山の鳥類に比し調査が遅れている。なお其上此類の殆んどが中小型且色彩地味にして引立たず、同一種でも個体差甚だしく肉眼で接近し得る程度では種名は愚か其の存在位置の発見すら困難な事が多い。このため多くの鳥学者の中でもシギ、チドリの野外観察に興味をもち且確實に種名を断定し得る学者は甚だしく、ために我が国に於ける之等の生態研究は未だ不完全な分野が多く、反面それだけに興味と重要性があるわけである。例えば或る種によつてはその一群が同一種であつても老幼、個体の大小、夏羽、冬羽、中間の羽毛等を混じており加うるに水面に反射する光線、鳥体の向き、水深の大小の關係で之が数種の群に見えることはしばしばあるのである。一例をあげるとハマシギとシユビシギの場合及びトウネンとヒバリシギ、オジロトウネンの3種混群に至つては余程経験ある学者でも野外数mの距離で同一個体を8倍の双眼鏡で半時間凝視していても正確な判別を下し得ぬ事もある。まして我が国に於て數回しか記録されていないオジロトウネン等が全く同色、同大のトウネンの大群中に1羽や2羽、又その中にヒバリシギの少数が居ても大抵の場合発見されずトウネンの大群として記録される事は有り得るわけである。

我が国に於けるシギ、チドリの個体数と種類の多い場所としては東京湾、大阪湾、岡山県児島半島、有明湾等がある。県下では地形的に武庫川河口、市川河口、夢前川河口等が多いが、いずれも大阪湾に比すべくもない。これの1番の原因は広大な泥沼がなく、採食及び安全休憩地が無いためである。然し上記場所に於てもシギ、チドリは大体海岸線に沿つて春は北上、秋は南下するので大阪湾に見る程個体数は多くはないが其の種類は殆ど発見出来る。加うるに之等には海岸のみを好むものと、少し内陸の沼地を好むものがあるので姫路地方に於ても市川河口及び海岸と稍上流の神崎郡附近を調査すると種類は相當の数になる。従つてこの本文中に姫路附近と言うのは姫路市、神崎郡、加古郡、飾磨郡一円をさす。更に本調査は昭和24年度より今日迄神崎郡在住の野鳥研究家の大先輩である小林平一氏の絶大な御指導と鑑定を得て行われたことを特に附記せねばならない。今後其氏の協力と助言を得て詳

細な調査を続行する事により我国の分布上、特に珍稀な数種も追加出来るものと考えている。今日迄集つた記録を整理し回を分けて分割発表し御批判を受けることにした。

○姫路地方のシギ、チドリ、渡りと大阪湾との個体数の比較

前記の通り大阪湾は本邦での最も多く渡来する地方であるだけに姫路地方とは比較にならぬ程個体数が多い。姫路地方では調査場所として妻鹿海岸と神崎郡に点在する泥深い池を対照として調査した結果(第I、II、III、IV、V表)を得た。この表は現在迄に観察した該地に於ける最も個体数の多い日のデータである。

第I表

調査地 大阪、住ノ江
調査日時 1952, 9, 21, 10~17時、晴

種名	個体数
アオアシシギ	1, 2, 1, 3, 4, 8, 4
キアシシギ	2, 3, 1, 3, 2, 2, 2, 3
トウネン	30(+), 120(+), 40(+)
ダイゼン	2, 1, 1, 2, 2, 6, 1
オオソリハシシギ	2, 7
ハマシギ	1
シロチドリ	4, 2, 4, 7, 80(+)
チュウジャクシギ	2, 3, 4
ムナグロ	15, 22, 25
イソシギ	2, 1, 1, 5
ハウロクシギ	2
ダイジャクシギ	1
キヨウシヨシギ	2, 1
コチドリ	3, 12
クサシギ	2
オグロシギ	8
タカブシギ	5
ウズラシギ	3
タシギ	5
ヒバリシギ	1
ソリハシシギ	4
オバシギ	1

注) (+)印は正確に羽数は算えられなかつたがそれ以上と判断した時の符号

第II表

調査地 姫路市白浜
調査日時 1952, 8, 14, 17~18時、晴

種名	個体数
キアシシギ	12
イソシギ	4
シロチドリ	30(+)
コチドリ	10(+)
チュウジャクシギ	4

第III表 調査地 姫路市妻鹿
調査日時 1952, 9, 1, 10~18時、晴

種名	個体数
ソリハシシギ	4
イソシギ	7, 2
ムナグロ	7
シロチドリ	20(+), 4
キアシシギ	2
コチドリ	10(+)
タカブシギ	1

第IV表 調査地 神崎郡船津村
調査日時 1952, 9, 5, 10~14時、晴

種名	個体数
トウネン	30(+)
ソリハシシギ	25
アオアシシギ	6
ウズラシギ	1
タカブシギ	4
コチドリ	10
イカルチドリ	10(+)
イソシギ	10
チュウシギ	4
タマシギ	2

第V表 調査地 神崎郡船津村
調査日時 1952, 9, 8, 12~17時、曇

種名	個体数
イカルチドリ	4, 5, 6, 10
トウネン	30, 20(+), 10
アオアシシギ	5
タカブシギ	7, 10
ソリハシシギ	3, 20
イソシギ	5, 3
ウズラシギ	1
タシギ	2, 4
オシロトウネン	1
キアシシギ	1